

STOP! ジャンボタニシ被害



ジャンボタニシ
(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシの卵塊
(1頭の年間産卵数は3,000個以上)

*** 県内多発生地域の事例紹介 ***

左のほ場は耕作放棄され、貝が大繁殖していたにも関わらず、すぐ隣の右のほ場は適切な管理により被害がありませんでした(写真上)。また、左のほ場も、右のほ場と同じ対策を行って作付けしたところ、翌年には貝による被害がありませんでした(写真下)。



「隣に大発生のほ場があっても、適切な管理で被害ゼロ!」「前年度に大発生していても、適切な管理をすれば翌年には被害ゼロ!」

あきらめずに、**STOP! ジャンボタニシ被害!**

ジャンボタニシ被害は 複数の対策を組み合わせて防ぎましょう!

【春】侵入防止

水路で越冬した貝がほ場に侵入しないよう、ネットや金網を取水口に設置しましょう。網の目が細かすぎると、枯草などのごみが詰まりやすいので9mm程度の網目がおススメ!

小さい貝はネットをすり抜けるため、浅水管理や農薬散布と併用します。



【田植え時】食害防止(どちらか選ぶ)

①浅水管理

水深が浅いと貝の活動が抑制されるため、田植え後約3週間、水深を4cm以下(理想は1cm)に維持しましょう。

⇒【均平のコツ!】をチェック

②農薬散布

使用にあたっては、表示された使用方法等を必ず確認しましょう。効かせるにはコツがあります!

⇒【農薬のコツ!】をチェック

苗が5葉期以降になると、食べられにくくなります。それまでの間、①または②でしっかり食害を防ぎます。



【秋・冬】越冬防止

冬期の耕うん

物理的に貝を破壊する効果と、土から出して寒さにあて凍死させる効果があります。⇒【耕うんのコツ!】をチェック

※秋の石灰窒素施用(水が確保できる場合、実施可能)

稲刈り後、水温が15℃以上あるうちに、3~4日間湛水した後散布します。魚毒性が高いので田面水は水路に流さず自然落水させます。



【冬】水路の泥上げ

常に水や泥がある水路は冬でも暖かく、越冬に最適な場所です。1~2月に泥上げし、掘り上げた泥は、ほ場に入らないよう、薄く広げて貝を寒風にさらす、又は潰すなどして、生き残らないように処理します。



均平の コツ!

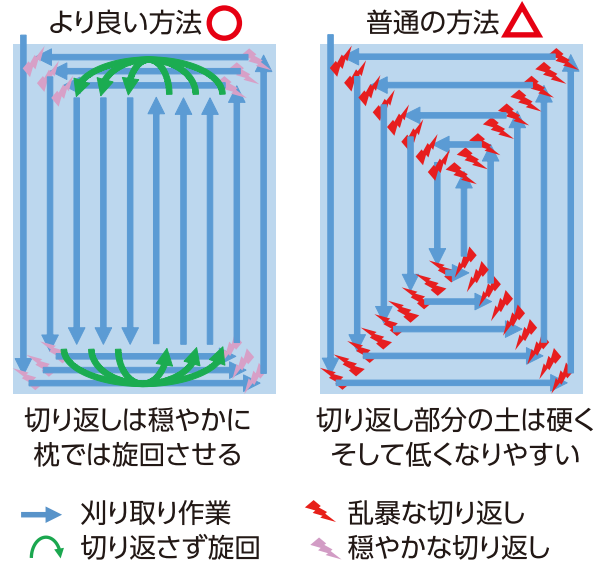
均平は、日頃の作業から!

均平であれば浅水管理を効果的に実施できます。また、被害は水が深い場所に集中しますが、均平だと貝も分散して欠株に至らず、被害を抑えることも可能です。

レーザーレベラーがなくても、水が深くなる場所を記録しておき、冬期や代かき前にならすことができます。また、特にコンバインなどでの農作業時にほ場内の特定の場所の土を硬くしたり低くしたりしないよう、注意して作業することも有効です。

(千葉県農林総合研究センター)

コンバインの操作方法に注意! ～切り返しによりデコボコ発生～



農薬の コツ!

触角



① 散布は「貝が動いているのを確認してから!」

「スクミノン」「ジャンボたにしくん」などの殺貝剤は、貝が食べないと効果がありません。貝は寒いと農薬を食べず、水温15℃以下では効果が著しく低下します。貝が触角を出して、活発に動いている姿を確認してから使いましょう!

② 農薬散布後3～4日間、水は深く!

ジャンボタニシは、水の中でしか農薬を食べることができません。散布後は水深を3～5cmに保ち、貝に農薬をしっかり食べさせましょう!また、農薬がくずれると食べられなくなります。水の出入りを少なくし、3～4日間は、田面を静かに保ちます。

③ 殺貝剤と食害防止剤の併用はダメ!

ジャンボタニシに登録のある農薬には、貝を殺す殺貝剤と、貝をマヒさせるだけの食害防止剤があります。

「パダン粒剤4」などの食害防止剤を使用すると、貝がマヒして動けなくなり、稲も食べませんが、「スクミノン」などの殺貝剤も食べなくなります。「パダン粒剤4」の効果は1週間程度なので、苗箱施用などしている場合は、殺貝剤の散布を遅らせるなど、併用しないよう注意しましょう!

耕うんの コツ!

耕うんは、「回転は早く、スピードは遅く!!」

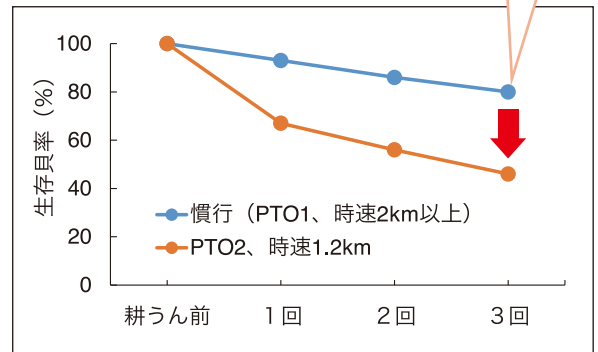
回転速度PTO2、時速1.4km以下で耕うんすることで、殺貝効果UP!

耕うん回数を重ねるごとに生存貝率は低下します。最も殺貝効果が高いのは、地面が固く締まっている1回目の耕うんです。忙しくて何度もゆっくりできない人は、「最初の1回だけ」、「被害の多いほ場だけ」、「被害の多い場所だけ」など限られた範囲だけでも、回転は速く・スピードは遅くで耕うんを!



耕うんで破壊された貝
(試験のために貝を白く塗っています)

生存貝率:慣行80%に対し、PTO2・時速1.2kmなら46%まで減らせる!



耕うん回数と貝密度の推移

注)本データは、殻高35mmの貝を想定した生存貝率の推定値を示す

(千葉県農林総合研究センター)

新たな場所にジャンボタニシを放すことは、 絶対にやめてください!

千葉県は気候が温暖で、県内どこでもジャンボタニシが越冬できます。

貝の活動をコントロールすることはできず、一度定着してしまうと根絶は困難です。



ジャンボタニシ対策として「ツバキ油粕(ツバキ油、 椿サポニン、ツバキの種子)」を使用しないでください!

農薬取締法において、ツバキ油粕は、「資材の原材料に照らし、使用量や濃度によっては農作物等、人畜及び水産動植物に害を及ぼすおそれのあるもの」に指定されており、貝の防除には使用できません。



【お問合せ】

農林水産部安全農業推進課 043-223-2888 または、所轄の農業事務所まで